

エノコログサ (犬ころ草)

名前の意味^{いみ}：これで子犬をじゃらしたから。

分類：単子葉類、イネ科、エノコログサ属

(イネ科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：イネ、コムギ、トウモロコシ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、畑の縁

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴^{なな}：斜めに立ち上がる^た茎、緑色の毛虫のような穂^{くき} ^ほ

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数：2枚 (小さくて目で見てもよくわからない)、離弁^{りべん} (花びらが1枚ずつ散る)

花の時期：7—10月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：アキノエノコログサとは、穂^ほが短く、熟^{じゅく}した時、種子が見えないことで、コツブキンエノコロとは、毛が緑色であることで区別できる。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)